

平成20年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立田鶴浜高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1 わかる授業への工夫改善、普通教科と専門教科の指導連携、常識力検定の実施により、生徒の学習意欲を喚起し、学力の向上を図る。	① 普通教科と専門教科の連携を図り、わかる授業への工夫改善を行う。	研究授業に参加した回数が A 4回以上 B 3回 C 2回 D 2回未満 である。	A 11名 (52%) B 6名 (29%) C 4名 (19%) D 0名 (0%)	A+Bは81%であった。今年度は10月以降に実施したが、研究授業の成果をいち早く生かして改善を進めるため、次年度は前期の早い時期から実施する。
		授業の参観回数が A 7回以上 B 5回 C 3回 D 3回未満 である。	A 9名 (43%) B 4名 (19%) C 7名 (33%) D 1名 (5%)	公開授業期間を設け、互いに授業を参観し、観点に基づいて評価を行う取り組みを進めた。参観回数A+Bが70%以上を目標としたが62%にとどまったため、次年度は公開授業期間を増やし、目標に達するまで取り組む。
	② 生徒の理解度に応じた学習指導を行う。	生徒の A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 が授業に満足している。	A 福祉科(90.0%) B 英語科(84.9%) 数学科(84.6%) 看護科(83.7%) 保健体育科(80.5%) C 理科(71.9%) 国語科(70.7%) D 地歴公民科(68.2%) 芸術科(64.0%)	全教科平均の肯定評価の割合は、中間評価78.3%に比べて2.5%増加し、80.8%であった。 C、D判定の教科については、ビデオ撮影を活用した研究協議を実施し、授業にどのような課題があるかを明らかにし、授業改善を図る。
	③ 家庭学習調査を実施しながら、家庭学習課題を与え、その定着・充実を図る。	生徒の家庭学習時間の平均が A 3時間以上 (3年生) B 2時間以上 (2年生) C 1時間以上 (1年生) D 1時間未満 である。	1年生 C (1.11) 2年生 C (1.49) 3年生 A (3.21)	1、3年生については、学年目標を達成できたが、2年生については、学年目標を達成できなかった。 次年度は、学年に応じた家庭学習課題を適切に与えるとともに、判定基準を目標を達成できた生徒の割合とするように見直す。
学校関係者評価委員会の評価	指導力の向上が第一であり、研究授業の中身の充実が望まれる。参加回数や参観回数だけではなく、教員の研究授業に取り組む姿勢が重要である。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	校内研修会等により、教員の意識改革を図るとともに、研究授業におけるビデオ撮影を実施するなどして、指導力の向上に一層努めていく。次年度は、公開授業及び研究授業の時期を早め、中間評価による改善を図っていきたい。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）	
2 目的意識・進路意識の高揚と、専門教科指導の充実を図り、看護師・介護福祉士ともに国家試験合格率100%を目指す。	① 進路実現に向けた自覚を促し、自己理解シート・キャリアマップを作成する。	進路志望達成のためのキャリアマップを作成できた生徒が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満 である。	11H A(100%) 12H A(100%) 21H B(92%) 22H B(94%)	12月末時点ではD評価であったが、その後の指導で9割以上の生徒が完成させることができた。進路について改めて考えるよい機会となり、自己理解が深まった。次学年では進路実現に向けた情報収集の力を伸ばす方策を考えたい。また、LHRを計画的に活用したい。	
	② 専門教科の指導の充実を図り、国家試験合格率100%を目指す。	(衛生看護科) 目標を達成できた生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 である。 <目標> (高校) 定期考査で6割の得点率 (専攻科) 模擬試験 必修問題で8割の得点率 一般問題で7割の得点率	(高校) 1年 C(70%) 2年 B(84%) 3年 B(81%) (専攻科) 1年:必修A(97.5%) 一般D(57.5%) 2年:必修B(88.9%) 一般C(72.2%)	(高校)科目によって差がみられたが、2・3年の学習意欲向上が評価に表れたため、次年度も取り組みは継続する。 (専1)課題提出の徹底、試験問題の見直し、個別指導を強化した結果、必修・一般共に得点率は全国平均得点率を上回った。 (専2)月1～2回の模試を課し、弱点を洗い出し補習個別指導を実施した。この時期では外部模試の到達度はほぼ例年並みである。全員合格には、学年毎に履修内容の定着と積み重ねが重要で、更なる徹底を図る。また、早期からの個別指導を充実させる。	
			(健康福祉科1年生) クラス全員の実技試験での得点率が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 である。	第1回実技試験 61.5% 第2回実技試験 81.5% 第3回実技試験 79.3% B	実技試験の練習時間の確保と生徒の意識の高揚を促すための指導を行い第2回は80%以上を達成できた。しかし、3回目の実技では練習意欲を高めることができず80%を越えることができなかった。次年度からは、専門科目の時間も増え、1年生施設実習も実施予定であるため、オリエンテーションの強化を行い、1年時から何事にも集中して取り組む姿勢を養っていく。
			(健康福祉科2年生) 施設実習でB評価以上の生徒がクラスのA 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 である。	A評価 13名 40.6% B評価 19名 59.4% 合計 100% A	施設実習においては、全員がB以上であったが、実習の成果としては個人差が大きかった。 2年生では、実習への取り組みが重要であり、実習への取り組み方が資格取得へと繋がっていくものであると考え判断基準としたが、次年度より定期考査の得点率を判断基準としていく。
			(健康福祉科3年生) クラスの平均得点率が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 である。	1月実施(実力編) 98.9/120点 平均得点率 79.9% B	4月より7回の模擬演習を実施し、最終では、平均得点率79.9%であった。 12月下旬より個々に伸びてきており、個人指導の導入により100%合格を達成した。評価基準のAが80%以上であることに関しては、高い基準を設けることによって、100%実現が確かなものになると考える。
学校関係者評価委員会の評価	判断基準も適切であり、取り組みも評価できる。次年度はキャリアマップを早期に作成するとともに、その内容の充実を図って欲しい。また、改善策を自信を持って実行し、目標を達成して欲しい。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	国家試験に向けての個別指導及び全体補習を強化した結果、看護師・介護福祉士ともに合格率100%を達成した。次年度も引き続き、取り組みを継続し、国家試験全員合格を目指す。				

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
3 看護や福祉の道を目指す生徒として、生命を尊重し、他を思いやり、場に応じた行動のとれる豊かな人間性の涵養を目指す。	① 看護や福祉の道を目指す生徒として、積極的にボランティア活動を推進する。	年間総時間数が A 4,000時間以上 B 3,500時間以上 C 3,000時間以上 D 3,000時間未満である。	5031 時間 A	昨年度の総時間数3,395時間を大きく上回ることができた。次年度より教育課程変更のため、健康福祉科生徒は夏季休業中に実習が実施される予定である。このため、ボランティア活動を行う期間が限定されることから、判定基準を見直す。
	② 実習におけるマナーと、状況や場に応じた行動がとれる。	実習の評価票で良くできたと評価された生徒が A クラスの90%以上 B クラスの80%以上 C クラスの70%以上 D クラスの70%未満である。	(衛生看護科) 2年 A (100%) 3年 A (93%) (専攻科) 1年 A (93.4%) 2年 A (95.6%) (健康福祉科) 2年 A (93.8%) 3年 A (100%)	(衛生看護科) 3年生36名中「言葉遣い・挨拶」で1名、「身なり」で4名が努力はしていたという結果となった。個人的指導を実施する。マナー評価は来年度も継続する。 (専攻科) コミュニケーションの苦手な生徒や学習意欲が低下している生徒は、実習の場でも挨拶・態度は消極的だった。日頃から挨拶や生活・学習指導の徹底、コミュニケーションスキルを高める演習を実施する。 (健康福祉科) 2年生32名中2名が「D」評価であった。日頃からの生活態度をきちんとするという取り組みの徹底を行う必要がある。
		場に応じた行動がとれていると答えた教職員が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満である。	C (76.9%)	本校生徒は場に応じた行動がとれていると答えた教職員は、中間評価時点(55.6%)より21.3ポイント増加した。継続した粘り強い指導の成果が見られた。 次年度は、場に応じた行動について、客観的で具体的な内容及び基準を模索するとともに、アンケートの内容と回答項目を改善する。
学校関係者評価委員会の評価	ボランティア活動は評価できるが、場に応じた行動がとれていない生徒もいることから、次年度は看護・福祉を目指す生徒として、自らを律し、他を思いやる生徒の育成に一層取り組んで欲しい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	次年度は、進んで生活規範を守る生徒の育成に努めるとともに、引き続き、病院や福祉施設から全員が高い評価が得られるよう、生活態度やコミュニケーション能力の向上を目指した指導を充実する。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
4. 部活動や生徒会活動の活性化を図り、看護や福祉の道に進む生徒にふさわしい体力向上に取り組む。	① 生徒会執行部が企画・運営する行事に生徒を積極的に参加させる。	挨拶運動に参加した生徒の延べ人数が A 400名以上 B 200名以上 C 100名以上 D 100名未満 である。	B (245名)	挨拶運動に参加した生徒の延べ人数は、245人であった。 次年度は引き続きA達成を目指して取り組む。
	② 看護や福祉に必要な基礎体力を養うため、合同部活動を推進する。	全校生徒の A 50%以上 B 45%以上 C 30%以上 D 30%未満 が合同部活動に参加した。	A (56.0%)	本年度の合同部活動は、外部講師によるエアロビクス運動を4回実施した。文化部も交えた1, 2年生のみの参加であったが、参加率は高かった。持久力・筋力アップとともに、体力に関する関心を高める良い機会となった。 次年度は、年間を通した取組を計画する。
	③ 部活動の活性化を図る。	年間活動日数の平均が A 120日以上 B 80日以上 C 60日以上 D 60日未満 である。	B 平均活動日数 133日/部	15部の活動日数総計は、1995日、一部あたりの平均活動日数は133日であった。 次年度は運動部、文化部の判断基準を設定し、活動の充実を図る。
学校関係者評価委員会の評価	挨拶運動については、学校外での挨拶が十分にできていない生徒もみられたことから、次年度は学校外でも挨拶ができるよう、取り組みを推進して欲しい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	次年度は、生徒会活動を活発化し、学校外での挨拶運動に積極的に取り組むとともに、運動部・文化部別の活動日数目標を設定するなどして、部活動の一層の活性化を目指す。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
5 地域に開かれた学校として、看護・福祉の情報提供や施設設備の開放を行い、地域のニーズに応える。	① 地域の医療・福祉関係者の本校への理解を促進するとともに、生徒の地元医療・福祉施設への理解を深める。	地域の医療・福祉施設との交流が年間 A 30回以上 B 20回以上 C 10回以上 D 10回未満 である。	A (合計 37回) (健康福祉科) 9回 施設講演会 1回 施設との交流 7回 地域との交流 1回 (衛生看護科) 28回 健康チェック 21回 病院との交流 7回	(健康福祉科) 予定された授業見学の訪問がなかった。 授業見学の日程を計画し、事前に案内するなど、来校しやすい環境作りを行う。 (衛生看護科) 地域での健康チェックの実施は本校への理解を深め、生徒が地域に関心を持つよい機会となった。 病院関係者との交流は、互いの理解促進に役立った。 次年度も継続し計画していく。
	② 健康チェックを通じて地域住民の健康に関心を示し、地域との信頼関係を深める。	満足できた地域住民が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 である。	B (84.2%)	アンケート記入者550名中463名が「よかった」との結果であった。アンケート未記入者が200名程いることから次年度は、測定者全員の意見をもらい、より信頼性の高い評価としたい。
	③ 小学校・中学校への出前授業の充実と地域への施設開放を行う。	福祉に対して理解を深めた小中学生が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 である。	A 小学校出前 9校 26回 中学校出前 5校 9回 アンケート集計 小学校 99.8% 中学校 98%	福祉に対する理解がなされ、地域に開かれた学校としてのニーズに応えることができた。福祉に対する理解も深まり、大変良い取り組みであった。 来年度以降も継続しながら、これからの社会を支えていく小・中学生に福祉に対する理解を深める機会としたい。
学校関係者評価委員会の評価	学校の特色を生かした取り組みや役割の啓発活動は、その役目を十分果たしている。 今後とも技術と専門性を有する本校を一層PRするとともに、地域のニーズに応えてほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	今後とも、安定した雇用が見込める職業について、PRを継続するとともに、生徒への指導を充実し、取り組みの成果を挙げ、地域のニーズに応えていきたい。			